

様式(細則 5-2)

令和2年2月3日

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため(視察・研修)を(実施・受講)したので、その結果を報告します。

記

1、期 間 令和2年1月24日(金) 13時30分～16時50分

2、研修内容 「地域の資源を活かす！日本遺産の活用に向けた

シンポジウム」

3、研 修 先 大田市(商工会議所)

4、調査経費 交通費 3,840円(JR・タクシー)

5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



「地域の資源を活かす！日本遺産の活用に向けたシンポジウム」出席のため

令和2年2月3日

- 1 日 時 令和2年1月24日（金）9時30分～11時05分
- 2 場 所 大田市（商工会議所）
- 3 講演等 「日本遺産を超えて世界遺産に向けて」東京都市大学特別教授 涌井雅之
パネルディスカッション(たまりば代表三谷和弘 国際交流員ベイガ・ビビアネ)

4 概 要

- ①（涌井特別教授）訪日外国人旅行者数が2年度4,000万人が12年度には6,000万人に、地方部での外国人延べ宿泊者数7,000万人泊が1億3,000万人泊に増加する見込みで、インバウンドの取り組みが重要である。
- ② 外国人観光客受け入れの態勢が地域活性化のカギを握っており、8か所の国立公園満喫プロジェクトモデルの一つに大山・隠岐国立公園が選ばれ、観光資源としての魅力の維持や強化、ツーリズム、風景と野生生物の保護、地域の発展を目指すとしている。
- ③ 観光はこれまでの名所旧跡の物見遊山から、地域の日常風景、生活の空間、眠っている地域資源などが観光資源であり、既存の観光地ではなくまさに地方、地域資源が重要となり、地域の知恵比べとなる。
- ④ 国立公園、三瓶小豆原埋没林、日本書紀と出雲、出雲大社、この地方は渡来人弥生人の玄関口、東アジア古代史の終点などとしての地位、地域特性があり、地域がバラバラ、資源の個々ではなく、連携する、まとまる、物語性、そこに住民がいる、このようなことに力点を置き地域活性化、地方創生を進める必要がある。
- ⑤（パネルディスカッション 三谷和弘）三瓶山麓で住民の居場所づくりを目指し、共同温泉の取り組み、温泉場に癒し効果を高める風鈴飾り、屋外カフェなどを実施しており、体験型メニューづくりに住民参加型で取り組んでいる。
- ⑥（パネルディスカッション ベイガ・ビビアネ）外国人観光客などに三瓶山、石見銀山などを案内した経験から、点在する地域資源のルート化、案内板やパンフレットなどの外国語表記が必要で、外国人目線での観光地域づくりが大切である。
- ⑦（パネルディスカッション 涌井特別教授）地域資源を活かした住民主体の取り組み、外国人観光客目線でのおもてなしやサービスなどが大切であり、交流より滞在が重要で、地域の知恵を活かしたお金が落ちる仕掛け仕組みをつくる。

5 所 見

- ① 国立公園満喫プロジェクトのモデル事業が進められており、世界遺産石見銀山、三瓶山、三瓶小豆原埋没林などに加えて、県西部を巻き込んだ観光ルートづくり、市町の参画が必要である。
- ② 大田市は「石見の火山が伝える悠久の歴史」をテーマとして、日本遺産の認定を申請し、国内外の知名度向上や観光客の誘致を目指すとしているが、浜田市としてこれに呼応して石見壘ヶ浦、火山が作り出した黄長石霞石玄武岩、大麻山の石ごうろなどとのルートづくりの検討が必要である。
- ③ 世界遺産石見銀山、ユネスコ文化遺産石州和紙、日本遺産石見神楽、同津和野今昔、申請中の中世の益田、大田市の石見の火山などと一体となった広域連携、広域観光施策が必要である。

—以上—